

信州大学 教育学部 同窓会報

信州大学教育学部同窓会報

【第13号】

発行人 佐野昌男
事務局 長野市西長野6ノロ
信州大学教育学部
教育実践総合
センター内
TEL (026) 238-4370



教育学部開学五〇周年を迎えて

同窓会会長 佐野昌男

われらが母校、信州大学教育学部は、本年をもつて、創立五〇周年を迎えます。

学部では、これを祝って記念事業を実施すべく記念事業実施委員会を設け、計画推進をしています。

わが同窓会でもこの一大事に何らかの協力をすべく、尚学会と共に、後援会を組織し活動していることは、会員の皆様方も知るところです。

過日、全会員へ記念事業募金のお願いを申し上げましたところ、募金目標額の三〇〇万円を大きく上まわると、一千万円余の浄財が寄せられました。

これは一重に卒業生の皆様方の母校に寄せる高い思いの結果であると感じ感謝申し上げる次第です。記念事業への強力な後援と学部支援のために有効利用させていただきたいと思っております。

さて、懸案である同窓会運営予算の厳しい状況に対する打開策を見出すべく、諮問委員会の設置が昨年の総会で承認されました。そこで、宮川明

雄委員長のもと、高野栄介委員、矢嶋直徳委員の3名による委員会にて、財務財源確保についての課題と平成十二年度以降の財源の確保について検討してもらい、答申書をいただきました。

昨今の少子化による学生数の減少は、わが同窓会入会者の減少に直結し、会費収入へ響いて参ります。二〇〇八年以降には大学入学希望者は全員が大学へ入れる時代になるとのことです。一方、大学によつては、大きく定員割れをし、存続できなくなり、つぶれてしまう大学も出てくるのとこのことです。

わが教育学部では生き残りをかけた魅力ある教員養成の施策が打ち出されており、力強い限りです。

来たるべく少子化時代にあつても本学部においては、全国からその魅力に惹かれ、多くの学生が集まつて学べるよう、同窓会として更なる応援ができることを望んでいます。

卒業生名簿刊行会からのお願い

教育学部創立五〇周年記念事業の一環として、「卒業生名簿」刊行を推進してきました。昨年、第一次調査をしましたが、お手元に届き返送していただけたでしょうか。本年一月末の集計では約七五〇〇通届き、うち約二二〇〇部の注文をいただきました。

●学校、会社などで転動された方は、この会報が届きましたら、お手数をおかけしますが、速やかに勤務先・住所・電話番号及び卒業(修了)年をお知らせください。(場合によっては職場ごとまとめておねがいすることもあります。)

●名簿刊行の採算ベースは五〇〇〇部以上といわれています。調査とデータ整理に大部分のコストがかかります。現在も購入の希望を募っていますので、第二次調査の際にご注文ください。

●これまでの名簿では、昭和二〇年当時の師範学校学校講習科修了の方々が欠落しているとの指摘をいただいております。大学でも調べてもらいますが、近親者の方、当時のことを知っておられる方、また本人のお申し出、同級生の方々のご協力をお願いいたします。

●名簿データの整理は大変な作業です。八月いっぱいまで作業を終了する予定ですので、何とぞご協力のほどお願い申し上げます。

△連絡先▽ 〒三八〇―八五四四 信州大学教育学部同窓会内卒業生名簿刊行会宛(電話〇二六一二三八―四三三七〇 教育実践総合センター内)

電話でのご連絡は、事務局員勤務の月、水、金の一〇時から一六時までにお願いたします。
(文責 刊行委員会委員長 久保信男)

第十一回同窓会総会報告



ホテル「信濃路」における記念講演会

信州大学教育学部同窓会の第十一回総会は、定例日である平成十年八月十一日(火)午前十時から長野市中御所「ホテル信濃路」において、会員三十三名の参加を得て開催された。

村田弘之副幹事長の進行のもと、古川玲子副会長の開会宣言、佐野昌男会長の開会挨拶に続いて、議長団に立澤孝延(本郷小)・小林了治(辛井小)両氏を選出、議事録署名人に春日一俊(須坂

高)・徳永英夫(戸倉小)両氏を選任し、直江寛志(附属長野小)・和田清(信大)両氏を書記に任命して議事に入り、次のような議案を審議した。

△第一号議案▽

平成九年度事業報告、歳入・歳出決算報告及び財産目録の承認について久保信男幹事長から総会資料に基づき平成九年度事業から説明、杵渕恭宏会計幹事長から資料に基づき平成九年度歳入・歳出決算報告及び財産目録について説明。清水厚実監事より会計監査報告があり、業務監査で財政改革と組織改革についての積極的な対応が求められた。

以上につき、拍手により全員一致でこれを承認した。

△第二号議案▽

平成十年度事業計画書案及び歳入・歳出予算書案の承認について久保信男幹事長から資料に基づき平成十年度事業計画書案について説明、杵渕恭宏会計幹事長から資料に基づき平成十年度歳入・歳出予算書案について説明。

以上につき、種々の意見の開陳があり、審議の結果、原案通り拍手により全員一致でこれを承認した。

議事終了の後、来賓及び特別会員の紹介があり、北条舒正織維学部「千曲会」代表、漆戸邦夫教育学部長から祝辞を戴き、古川玲子副会長の閉

平成9年度信州大学教育学部同窓会一般会計歳入歳出決算書

自 平成9年4月1日
至 平成10年3月31日

歳入合計額 3,434,512 円也
歳出合計額 3,042,524 円也
差引残額 391,988円也 10年度へ繰越

歳入の部

項 目	予算額	決算額	増・△減	備 考
1 前年度繰越金	126,838	126,838	0	
2 会 費	3,550,000	3,270,000	△280,000	未納者28名
3 雑 取 入	15,000	37,674	22,674	利子・御祝儀等
4 歳 入 合 計	3,691,838	3,434,512	△257,326	

歳出の部

項 目	予算額	決算額	増・△減	備 考
1 会 議 費	678,000	461,109	216,891	総会・役員会等
2 事 業 費	1,040,000	992,552	47,448	会報・学部後援・組織充実等
3 事 務 費	835,000	766,893	68,107	会報発送・印刷等
4 事 務 委 託 費	708,000	708,000	0	雇用費等
5 雑 費	120,000	113,970	6,030	宛名シール・学部謝礼等
6 予 備 費	310,838	0	310,838	
歳 出 合 計	3,691,838	3,042,524	649,314	

会宣言で総会を終了した。

総会に引き続き前NAOC参与 鷹野春彦氏による「なぜ長野冬季五輪を招致したか」と題する講演(一般公開)をお聞きし、さらに午後には小川秋實信州大学長もご出席され、懇親会が開催された。懇親会では恒例になった鮎沢美久会員のアカordeオンに合わせて「信濃の国」が合唱された。

ご挨拶



教育学部長 藤沢謙一郎

くお礼を申し上げます。

この度、漆戸前学部長の後を受けて、学部長に就任致しました。学部創立五〇周年を迎え、記念事業が行われるこの節目の年が、教育・教官組織にまで踏み込んだ学部の大改革をスタートさせる年になりました。微力ながら教職員の叡智を結集して、改革を実りあるものにするべく努力する所存ですので、同窓会の皆様には、これまでにご増してのご理解とご指導をいただきたくお願い申し上げます。

さて、この学部改革は、財政構造改革会議の教員養成課程の入学定員を三年間で五〇〇〇人削減するという方針により進められたものですが、同時に山積する教育課題に対応できる教員養成のあり方、すなわち教員養成カリキュラムと深くかかわった改革でもあります。本学部では、教員養成課程二八〇名を五〇名削減し二三〇名とし、このうち二一〇名を従来の「小学校教員養成課程」「中学校教員養成課程」「幼稚園教員養成課程」を統合した「学校教育教員養成課程」に、二〇名を「養護学校教員養成課程」に振り分けました。また、平成七年度に設置した「生涯スポーツ課程」を整備充実させて、一〇名増やして三〇名とし、さらに、いじめや不登校などの問題を、学校現場で実践的に解決できる人材育成を目的とした

「教育カウンセリング課程」二〇名を新設しました。この改組により学生の入学定員は、三〇〇名から二〇名減の二八〇名となりました。教官組織である講座も、従来の教科に連動していた十三講座から七講座に再編成し、柔構造化を図りました。教育実践研究指導センターも、これまでの「実践分野」「情報分野」に、新たに「人間分野」を加えて、教育実践総合センターに改組されました。十一年度入学生は、この改革の中でそれぞれの夢を抱いての大学生活を始めます。教職志望の学生たちには、厳しい就職状況の中でも教職への情熱を持ち続けて、教育界が期待する人材となるよう願うとともに、新課程の学生には教職員とともに新たな創造に向かう意気込みを期待しているところです。いずれにしても、同窓生の皆様が築き上げてこられた輝かしい本学の歴史に学びながら、この改革を実効あるものにし、地域社会に貢献することが使命と考えていますので、



整備された学部正門

ご理解と一層のご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

教育学部の創立五〇周年記念事業

記念事業として、式典、学部祭記念誌の刊行、卒業生名簿の刊行などが企画されています。
式典・平成十一年十一月十三日(土) 会場は勤労者福祉センターホール(学部の南)
記念講演会の講師・小池民夫氏に決定
学部祭・学生と共に学部全体で行うことが決定
記念誌・教育学部五十年誌の編集が進行中
卒業生名簿・同窓生が担当し刊行会が編集集中

学部の新転任・退職教官の紹介

- △平成十一年度新転任教官▽
 - 藤森 裕治 先生(言語教育講座―国語科教育)
 - 東京都立新宿山吹高等学校より新任
 - 齋藤 忠彦 先生(芸術教育講座―音楽科教育)
 - 長野市立裾花中学校より新任
 - 岩田 靖 先生(スポーツ科学教育講座―保健体育科教育)
 - 宮崎大学教育学部より転任
 - 結城 匡啓 先生(スポーツ科学教育講座―運動学)
 - 筑波大学体育科学系より転任
 - 福田 典子 先生(生活科学教育―家庭科教育)
 - 琉球大学教育学部より転任
 - △平成十年度退職教官▽
 - 小口 正行 先生(保健体育講座)
 - 昭和四十四年四月着任、停年退職
 - 山下 宏 先生(国語教育講座)
 - 昭和四十七年十月着任、停年退職
 - 入江 健久 先生(家政教育講座)
 - 平成五年十月着任、停年退職
 - 長谷川 博史 先生(音楽教育講座)
 - 平成六年四月着任、退職

州大学教育学部

オールラウンドな知識と得意分野をもった教員養成をめざして

教育学部は、学校、家庭および地域社会の諸問題に主体的にコミットし、他者や事物との生き生きとした関係や交流を保つ「臨床の知」の理念を核とした新しい教育体制に生まれ変わりました。今回の改組では、教員養成部門を学校教育教員養成課程と養護学校教員養成課程に再編し、さらに教育カウンセリング課程を新設するとともに、生涯スポーツ課程を一層発展・充実させました。

△特徴ある四つの課程▽

学校教育教員養成課程 (定員二一〇人)

初等教育と中等教育の連続性を重視しながら義務教育教員の養成を中心に据え、総合的な課題解決能力を持ち、高度な専門性と実践的指導力を身につけた教員の養成を目的とします。教育組織は、これまでの十三専攻から、言語教育、社会科学教育、理数科学教育、生活科学教育、芸術教育、保健体育および教育実践科学の七専攻に統合しました。

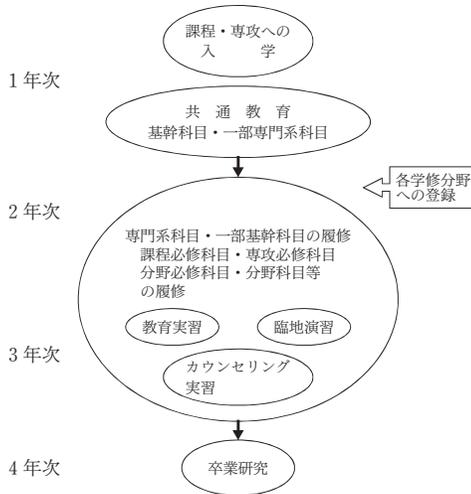
養護学校教員養成課程 (定員二〇人)

心身の障害や学習困難から生じる特別なニーズをもつ児童・生徒に対して、その障害の程度と種別等に応じた適切な教育を行うことのできる教員の養成、障害児教育への強い情熱と関心を持ち、明確な目的意識と実践的な指導力を身につけた人材の養成を目的とします。

生涯スポーツ課程 (定員三〇人)

高齢化の急速な進展と、健康への

入学から卒業までの学修過程



関心の高まりを背景とした生涯スポーツに対する社会的ニーズに対応できる地域スポーツ・障害者スポーツ・野外活動・冬季スポーツ等の指導者の育成を目指します。教育組織は、地域スポーツ専攻と野外教育専攻の二専攻からなります。

教育カウンセリング課程 (定員二〇人)

急激な社会変化を背景とした多くの問題が、学校を中心とし地域・家庭における多様な社会問題であることから、学校教育と密接なカリキュラムのもとに「いじめ」、「不登校」などの問題を学校現場で実践的に解決できる心理学の基礎的知識を持つた心理専門職の育成を目指します。

△入学から卒業までの学修過程▽

学生は各専攻への入学後、一年次は松本で共通教育、二年次の初めに自分の関心と将来展望等を考えて、学修分野を選択・登録することになります。各専攻から選択・登録できる学修分野はあらかじめ図のように決められています。

△専攻の目標▽

教育実践科学専攻

既成の教科の枠組みや固定観念から自由に、新しい学校教育のスタイルや教育システムのあり方を探求するところです。

言語教育専攻

言語一般に関する広い知識の修得と、言語に対する鋭い洞察力の涵養により、確かな言語観に支えられた教員の養成を目的とします。

社会科学教育専攻

社会科学の研鑽を通して、国際的視野にたつて日本の伝統的文化を理解するとともに、現代社会の諸問題について多面的な視点からの理解が可能な教師を育成することが目的です。

理数科学教育専攻

各学修分野での研鑽を深め、数理に明るい理科教師、科学に造詣の深い数学教師、環境教育やコンピュータ利用教育にたけた理科教師や数学教師の養成を目指します。

芸術教育専攻

音楽と美術の理論と実践で培われた資質と能力を発揮し、子ども一人ひとりの個性や特性、知識や表現力などに即した、あたたかな教育的対応を可能とする教員の育成をめざします。

保健体育専攻

最新の身体科学や運動理論を深く学ぶとともに、高い運動実技の能力と学習指導のための技術を修得し、優れた保健体育教師の養成を目指します。

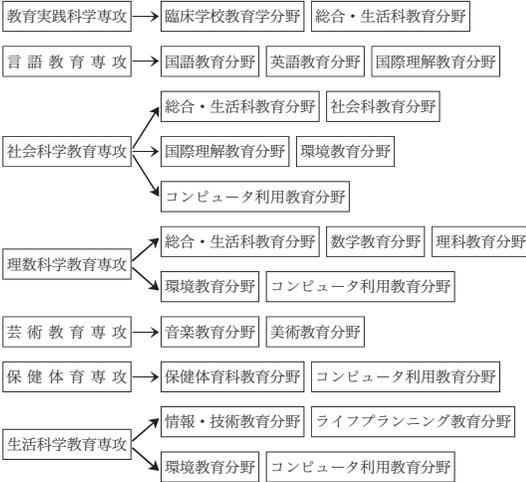
生活科学教育専攻

私たちが好ましい生活環境と条件の中で生きるための科学と技術の本質を理解し、国際化、情報化、ハイテク化、高齢化などに対応する基本的なものの方、考え方を学ぶことをめざしています。

各専攻と学修分野の関係

【課程・専攻】 【選択・登録できる学修分野】

学校教育教員養成課程



養護学校教員養成課程



生涯スポーツ課程



教育カウンセリング課程



生まれ変わる信

障害児教育専攻

実際の教育指導に即したカリキュラムに基づく体系的な学習と実習経験を通して、障害児教育に強い情熱と関心を持ち、明確な目的意識と実践的指導力を身につけた人材の養成をめざします。

地域スポーツ専攻

老若男女、身体障害の有無を問わず、誰もがスポーツを楽しむことができるように、それを適切に支援するための地域社会のスポーツ指導者と障害者のスポーツ指導者の養成をめざします。

野外教育専攻

生涯学習や生涯スポーツに関わる基礎的な理論を学ぶとともに、野外活動や自然教育の専門的な理論を学び、各種アウ

トドアススポーツや自然体験活動の指導者養成を指します。

心理臨床専攻

個人へのカウンセリング、学校などのメンバへのコンサルテーション、問題にかかわる専門家の間のコーディネートシヨンの理解と実践を育む学習を行い、学校内外の人間関係に関わる問題に適切に対応できるカウンセラーの養成を目指します。

学修分野の特徴

学修分野は専攻に関連した分野で、二学年に登録し、卒業研究を軸にして得意分野を深めます。

臨床学校教育分野

現代社会ほど学校が重要な役割を果たしている時代はありません。「教育・教師はこうあるべきだ」という古い発想から脱して、様々な場で生活している生身の子どもの具体的事実即して、学校のみでなく社会の諸機関と連携しながら、新たな教育的関係を探求します。

総合・生活科教育分野

「子どもたちが、自分の興味・関心や願い、課題などから自ら学び、考え、主体的に判断し、これをよりよく成就・解決して、自分の生きがいや生き方、価値観などを求め築く学習」を促す教育を実践するための理論と方法を学び、これからの教師に必須の力量を養います。

国語教育分野

国語教育の諸問題を歴史的理論的に解明する国語科教育、言葉の本質、日本語のきまりや特徴などを研究する国語学、作家・作品・文芸理論を追求する国文学、書法を学び、歴史的名品を鑑賞分析する書道の四分野からなり、これらの研究・教育を通して、実践的教育力の育成を図ります。

英語教育分野

英語教育学・英語学・英米文学を基本分野とし、英語を国際通用語とする考えに立ち、文化の基礎としての英語、コミュニケーションの媒体としての英語など様々な角度から教育研究を深めます。教育内容の開発と、多文化社会における共生力の育成に寄与できる人材育成を目指します。

国際理解教育分野

同じ国や民族の人同士でも、考え方や行動の仕方の違いが存在します。お互いの「文化」の違いをプラスに捉え、生かし合える人材の養成が急務になっていきます。国際理解教育分野ではそんな人材育成のできる教員を養成します。異文化をつなぐ能力とはいったい何かを追究します。

社会科教育分野

社会科教育を始め、人文地理学、自然地理学、日本史学、外国史学、社会学、文化人類学、法律学、政治学、哲学、倫理学などの学問の研さんを通して、国際的視野にたつて日本の伝統的文化を理解するとともに、現代社会の諸問題について多面的な視点からの理解が可能な教師を育成するこ

とを目的としています。

数学教育分野

数学と数学教育に関する確かな専門的力量を持った教員の養成を目的としています。学生が確かな数学的思考法と、実践的な教育法を修得できるよう、数学の各専門分野(代数学・幾何学・解析学・確率統計学)の講義や、数学教育の実践と教育に関わる講義を用意しています。

理科教育分野

物理学、化学、生物学、地学の専門領域の学問及び理科教育学の内容や理科の指導方法を学習することにより、理科教師として必要な識見と諸能力を身につけることを目標としています。学生は、卒業研究で一つの分野を重点的に履修しながら教官と学生が一体となって研鑽し、優れた教育実践能力を持った理科教師を目指します。

音楽教育分野

聴覚のみならず身体全体に関わる音楽的感性の育成を掲げ、豊かな表現力や創造性を育み、音楽教育を実践指導できる人材の養成を目指します。このため声楽、器楽の実技、音楽理論の講義、伝統音楽の実習及び各領域別指導法を履修し、音楽の専門性と実践的指導力の修得を目指した研究と教育を行います。

美術教育分野

子どもが手や目など全感覚を働かせて楽しく、進んで表現や鑑賞活動をする「身体的・体性感覚的な知」の教育を重視し、創造性と感性を豊かに育み、多様な表現や見方、感じ方に共感できる心と芸術的専門性をもった実践力のある美術教員の養成を目指しています。

保健体育科教育分野

体育原理、体育史、体育心理学、体育経営管理学、運動学、運動生理学、運動衛生学、学校保健及び保健体育科教育学等の理論、陸上競技、器械

運動、サッカーやバスケットボール等の球技及びダンスの実技を学びます。理論に裏づけられた運動実践が、保健体育科教育分野のキーワードです。

情報・技術教育分野

コンピュータと情報、資源とエネルギー、新素材と加工、生体と環境などの専門的内容を深めるとともに、あらゆる生活場面に不可欠なコンピュータを用いた情報処理と情報ネットワークシステムの効果的な活用を重点をおき、新しい時代をにう技術教育をめざします。

ライフプランニング教育分野

家庭生活を中心とした人と人、人と物との関係を人類の福祉に向けて追求し、生活経営、家族関係、保育、食物、被服、住居などの社会科学および自然科学にかかわる専門的な内容を深めると共に、二十一世紀をひらく家庭科教育に関する理論と実践の両面を学ぶことができます。

環境教育分野

今日の環境教育に求められている諸課題の広がりとして複雑さを考慮し、理科教育や社会科学教育、技術科教育さらには生涯学習論も含んだ幅広い授業科目で構成されています。多面的なカリキュラムのもとで、幅広い視野に立つて、環境教育をリードする人材を育成することを目的としています。

コンピュータ利用教育分野

情報化が進む学校教育の中で、コンピュータを活用した教育の方法や技術および学校運営に秀でた教員の養成を目指しています。教育へのコンピュータ利用に関わる最新で普遍的な知識や技術を修得し、それらを活用した高度な教育実践力を養うことができます。

障害児教育分野

精神薄弱養護学校における教育実習をはじめ、実習を重視したカリキュラムが組まれています。

自閉症児、学習障害児、知的障害児等の療育実習は最新の理論を応用し、学内にとどまらず、学外の施設や学校にて臨地実習が行われ、実践力のある指導者の育成に努めます。

地域スポーツ分野

生涯学習論や生涯スポーツ概論、コミュニケーション論、障害者スポーツ指導論等を共通に学び、地域社会の指導者を目指すならば、スポーツ指導法演習、スポーツ産業論等を、障害者スポーツ指導者を目指すならば、障害者スポーツ演習、障害者スポーツ実習等を重点的に学び、それぞれの専門性を高めます。

野外教育分野

野外活動の指導者と冬季スポーツの指導者の養成をめざします。生涯学習論や生涯スポーツ概論、野外活動概論など学び、野外活動の指導者をめざすならば、環境教育論、野外活動実習等を、冬季スポーツの指導者をめざすならば、冬季スポーツ施設論、雪上スポーツ実習等を重点的に学び、各自の専門性を高めます。

心理臨床分野

「学校臨床カウンセリング」、「学習障害・教育カウンセリング」、「生徒指導・発達カウンセリング」の三部門からなり、臨床心理学だけでなく心理学全般にわたって幅広く学習した後、スクールカウンセリング実習など臨床場面での実習を体験します。スクールカウンセリングとして活躍するために、心理学の基礎知識の修得と臨床経験を重視した教育が行われます。

就職状況

就職委員長 齊藤 寛海

就職にせよ、その他の職業にせよ、今年三月の卒業生の就職状況は、前年度より一層悪化してい

平成一〇年度卒業生・修了生進路状況

平成十一年五月一日現在

Table with columns for '就職・進学先' (Employment/Advanced Study), '就業者' (Employed), '進学者' (Advanced Study), and '合計' (Total). Rows include '学部' (Faculty) and '大学院' (Graduate School) with sub-categories for '学生' (Students) and '教員' (Faculty).

(注) 1. () は臨探で内数、○は外国人留学生で内数 2. 9月卒業生を除く

Summary table with 2 rows: '就職率(学部)' 74.8%, '教員就職率(学部)' 47.3%

る。就職は、一八歳人口と教員退職年齢人口との動向を考慮すると、統計上、今後五、六年は厳しい冬の時代を迎える。三〇人学級の実現、教員定年の延長というプラス、マイナスの不確定要素はあるが、現状ではそれを計算に入れることはできない。小中教員の採用試験でも、教科により、都道府県によって、一〇〇倍、八〇倍のところもでてきた。教員以外の各種公務員も、競争倍率が軒並み上昇した。民間企業への就職は、「記録を取り始めてから」最悪の記録を更新中である。しかし、一方で、このような時代だからこそ優秀な人材を確保したいという声も、教育委員会でも、官公庁でも、民間企業でも、あちこちで聞かれる。優秀な人材であれば、当然のことながら、就職への道は開かれている。

昨年度までの「学生・就職委員会」から分離独立したわれわれ「就職委員会」は、学生諸君の就職活動の援助をするためにあり、その具体的な内容は、委員会の現実の活動能力によって左右される。ところで、大学による就職活動援助体制は、私立大学と国立大学とはまさに雲泥の差がある。文部省などが主催した「全国就職指導ガイダンス」では、私立大学の出席者は就職部長や就職課長であり、国立大学の出席者は学生係の事務官や就職委員会の教官などであった。両者の差はプロとアマの差であるといっても過言ではなく、国立大学の援助体制は今後整備される必要があるという印象を受けた。本就職委員会は、必ずしも十分に活動資金をもっていているわけではなく、私立大学の活動に比べてあまりにも大きな制約を受けている。そこをいかに処理するか、これが当面の課題である。

今秋に「卒業生名簿」発刊

退官にあたっての一言

信州大学名誉教授 山下 宏

昭和四十七年十月赴任の当時は、それまでの数年間激動した学園紛争の余燼がまだくすぶっていた。夜中の十時過ぎに緊急教官会の招集がかかったこともあった。その後はずっと学部内も平靜続きで、研究・教育に打ち込めたことを仕合せに思っている。

私は同窓会の正規会員ではなかったので、その内容について詳しく知ることなく過ぎてしまったが、その規模の大きさ、事業の広さ確かさについては会報その他でおおよそ見聞してきた。とくに学部が充実発展する結節点において多大な支援活動が行われてきたことは承知している。その意味では、会員ではなく会費も納めてはこなかったが、学部在の二十六年半、同窓会からは直接間接たいへん恩恵をこうむり、お世話になった。退官のこの機に及んで、感謝の念のうちに、そのことを改めて想起するのである。

教育学部はゼロ免課程の新設が象徴するように、学校教育教員養成の一本道ではまかなえない状況を迎え、そのことと関連して卒業生の進路も幅広くなっている。同窓生の職域は多様化している。とはいえ、やはり学校教育に携わる卒業生は過半数を占め、中核となつていけるはずだし、将来ともその位置を強固拡大しなければならぬ。

年ごとに多様化する同窓生の活躍の場、そこから生まれる輻湊的なエネルギーを積極的に結集することが今後求められているところだろう。そのことは単に活動の多角化だけでなく、学校教育の活性化のためにも、これまでになかった新たな効果をもたらすにちがいないと思われる。逆境をプラスに転換していく視点の確立を期待したい。

信州大学
教育学部
同窓会

第十二回通常総会(通知)

日時

平成11年 8月11日(水)

午前10時より

会場

長野市岡田町「ホテル信濃路」

次第

1. 開会宣言
2. 会長挨拶
3. 議長団選任
4. 議事録署名人の選任並びに書記の任命
5. 議事

第一号議案 平成10年度事業報告、収入・支出決算及び財産目録の承認について

第二号議案 平成11年度事業計画(案)及び収入・支出予算(案)の承認について

第三号議案 同窓会費値上について、会則の改正

第四号議案 次期役員の変更、任期の確認

6. 来賓祝辞

7. 閉会宣言

記念講演会：12時より

懇親会：13時より

記念講演(一般公開)

「信大YOU遊サタデー」がめざすもの

信州大学教育学部教授

土井 進 氏



「信大YOU遊サタデー」は平成六年六月六日に始まった。これまで六年間にわたって継続され、参加した学生は延べ一三七一名、参加者は延べ三三三三九名となった。「信大YOU遊サタデー」とは、学校が休

日となった土曜日に、信州大学キャンパス(松本市と長野市)に地域社会の子どもたちとその保護者を迎えて、学生や教官が様々な「遊び」や「学び」の体験講座を開くもので、これまでに十六回開催した。この取り組みには次の四つのねらいがあり、これに賛同した学生や教官の自主的参加によって運営されている。

○教育学部学生や教官の持つているすぐれた教育力を地域社会に開き、貢献することによって、教育学部と地域社会とのつながりを深める。(大学開放)

○教育学部学生が、自分の得意とする分野で、学生時代でなければできないようなユニークなアイデアによる遊びや学びの体験講座を開設することによって、学生生活の活性化を図る。

(学生生活の充実)

○学校週五日制に対する地域社会や家庭の取り組みがまだ試行錯誤の状況にある現在、教育学部が率先して子どもたちに遊びや学びの場を提供することによって、学校週五日制時代の地域教育力の蘇生に務める。

(学校週五日制)

○教育学部学生が、自己の持ち味を發揮して子どもたちと関わることによって、教師となるための実践的指導力の基礎を身につける。(実践的指導力)

当日は録画ビデオを上映。

△プロフィール▽

一九七六年、東京教育大学大学院教育学研究科修士課程修了。東京都文京区教育委員会社会教育主事補、東京都公立中学校教諭、お茶の水女子大学附属中学校教諭、お茶の水女子大学文教育学部非常勤講師を経て、一九九二年、信州大学教育学部助教授。一九九八年、信州大学教育学部教授。一九九九年、附属教育実践総合センター長(趣味)合気道

△関連論文▽

「学校週五日制時代の地域教育力蘇生への教員養成学部の対応―学生パワーを地域社会に開く―」信大YOU遊サタデー」の実践―(一九九七)『教科教育学研究』第15集

記念講演会終了後、「ホテル信濃路」において懇親会(会費四〇〇〇円)を開催します。こちらへも多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。申し込みは同封の葉書で事務局までお願いします。